

【塩竈市】
校務DX計画

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づき、校務の効率化を実現するため、次に掲げる事項について重点的に推進する。

1 クラウドサービスの活用

【現状と課題】

本市では、クラウドサービスについて、主に学習用として「Google Workspace for Education」を導入しており、学習用途でのクラウドサービスの活用は進みつつある。

一方で、校務処理専用のクラウドサービスについては未導入であり、また学習用クラウドサービスの校務処理への転用についても一部業務にとどまっている。

【課題解決に向けた取り組み】

好事例やマニュアル等を掲載するICTサポートサイトの充実、ICT支援員による研修等を強化しながら、クラウドサービスのさらなる利用促進を図る。

また、紙ベースが主流となっている各種通知・案内等をはじめ、会議資料の共有についてはクラウドサービスの活用を前提とした運用を進めることで、迅速で漏れのない情報共有とペーパーレス化の実現を目指す。

2 ゼロトラスト環境の構築と次世代型校務支援システムの導入

【現状と課題】

本市で導入している校務支援システムや各種データについては、ネットワーク分離によるオンプレミス（教育委員会及び各学校に備え付けのサーバ）で管理・運用されており、高いセキュリティ環境のなか、成績処理、出欠管理、保健管理や指導要録・通知表の作成など、様々な校務で利用されている。

一方で、これらの作業は職員室に固定された校務用端末からのアクセスを前提としていることから、各教室や自宅、出張先といった職員室以外の環境において校務処理ができないなどの教職員一人一人の事情に合わせた柔軟な働き方の実現において課題がある。

また、校務支援システムで管理している各種帳票やデータについては、他のシステム等との互換性が低く、別のクラウドシステムやツール、紙ベースにより集計されたものを別途、手作業により入力するなど、多くの作業時間を要しており、改善が必要な状況となっている。

さらに、学習系と校務系ネットワークが分離されていることから、GIGAスクール構想化で生成されてきた学習系データの取り扱いについて、円滑なデータのやり取りができず、データ管理が煩雑となっている。

【課題解決に向けた取り組み】

ゼロトラストの考え方に基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、適切な勤務時間管理等を前提とした校務のロケーションフリー化による、働き方の選択肢を増やし、安全かつ働きやすい環境を実現するため、学校関係者や市の情報セキュリティ担当等との連携を図り、先進事例等を踏まえながら、校務系・学習系ネットワークの統合に向けた環境整備について調査研究を進める。

また、校務支援システムの次期更新時（令和9年度）において、パブリッククラウド上での運用を前提に、保護者連絡アプリをはじめとした汎用クラウドツール等と連携し、教職員や校内・校外の学校関係者の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする校務支援システムのクラウド化を目指す。

3 押印・FAXの見直し

【現状と課題】

文部科学省が発出した、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果では、多くの学校でFAXの利用や押印・署名が必要な書類が取り扱われており、多くの非効率を生み出している結果が示されており、本市においても同様の状況が散見されている。

【課題解決に向けた取り組み】

災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。